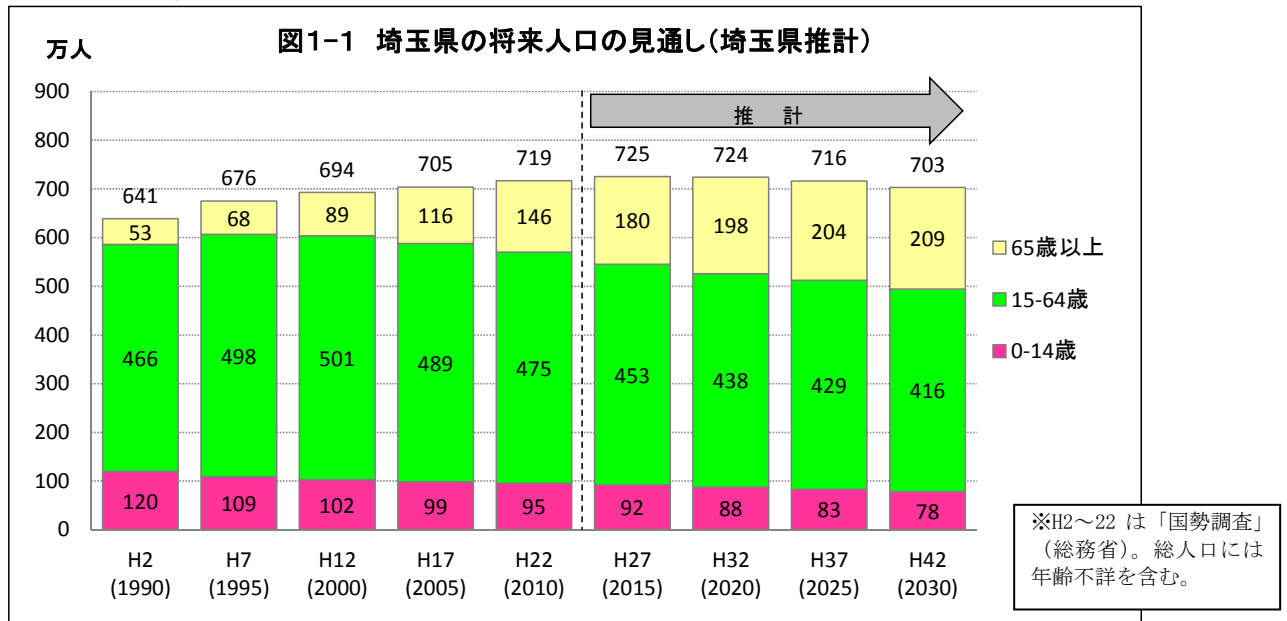
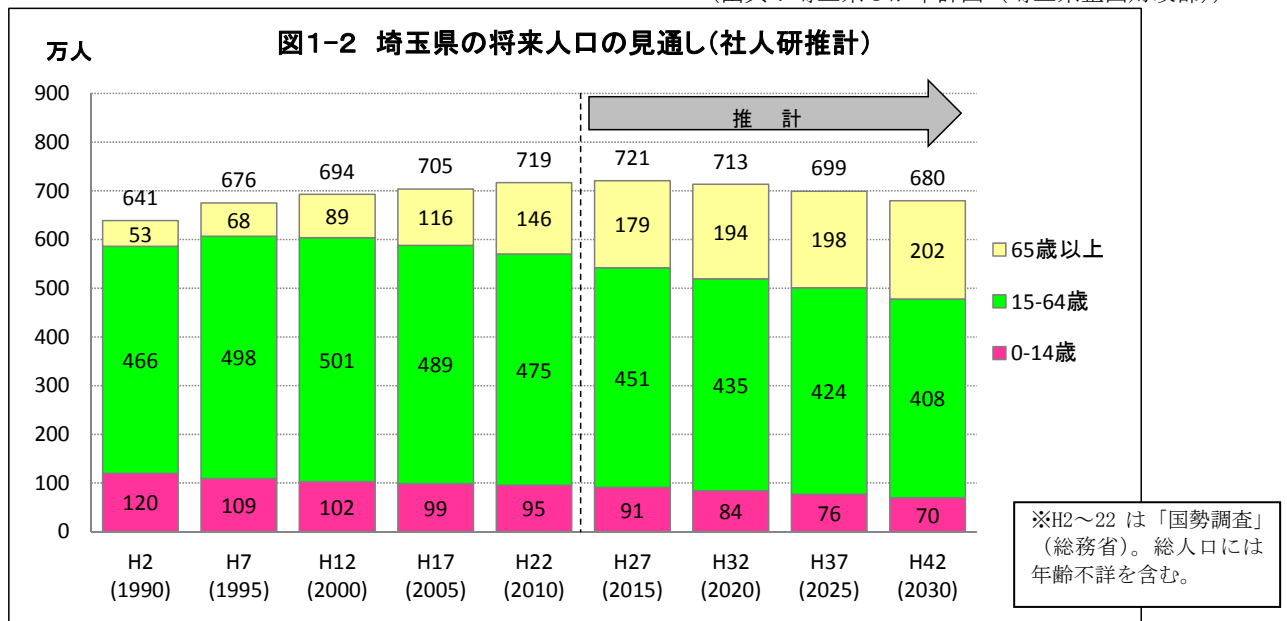


埼玉県の人口動向について

1 総人口・人口構成の推移

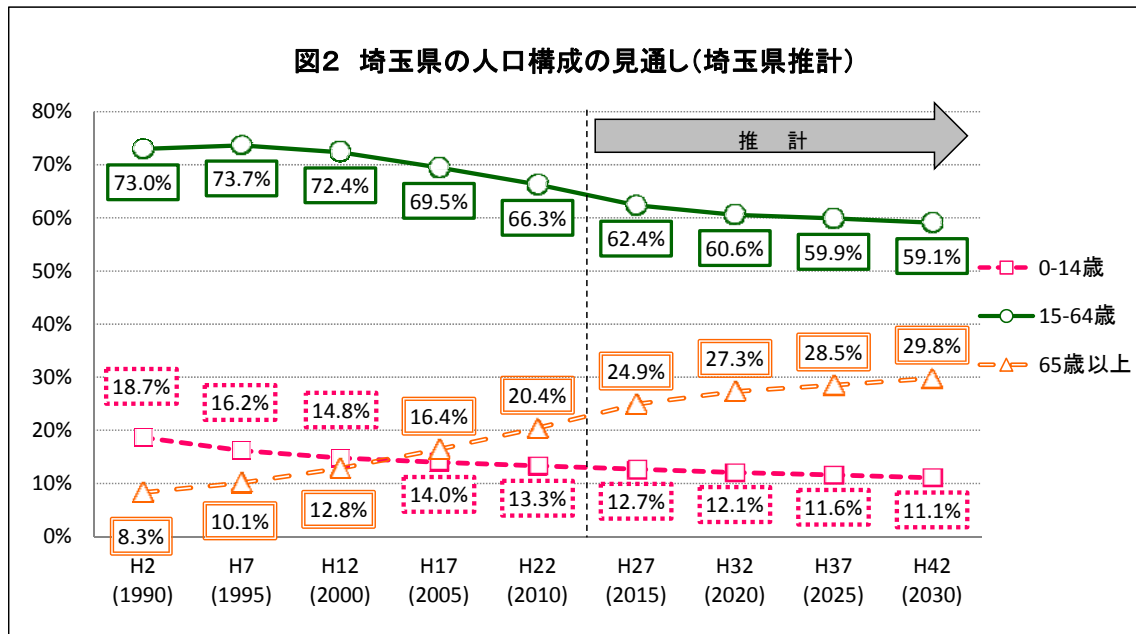


(出典：埼玉県5か年計画(埼玉県企画財政部))



(出典：日本の地域別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所))

- ・ 埼玉県の人口は2010年で719万人となっている。埼玉県及び国立社会保障・人口問題研究所が行った将来推計では、いずれも、**2015年頃をピークに総人口が減少に転じる見込み**である。
- ・ 年少人口(0～14歳)は1990年に120万人であったが、2010年には25万人減少して95万人となった(21%減)。
- ・ **生産年齢人口(15～64歳)**は2000年の501万人をピークに**2010年までの10年間で26万人減少**し、475万人となった(5.2%減)。埼玉県の推計では**2030年には416万人まで減少する見込み**。
- ・ **高齢者人口(65歳以上)**は1990年から2010年までの20年間で約3倍に増加(53万人→146万人)。埼玉県の推計では**2030年には209万人となり、1990年比で約4倍まで増加する見込み**。



(出典：埼玉県5か年計画(埼玉県企画財政部))

表1 都道府県別 高齢者人口の推移

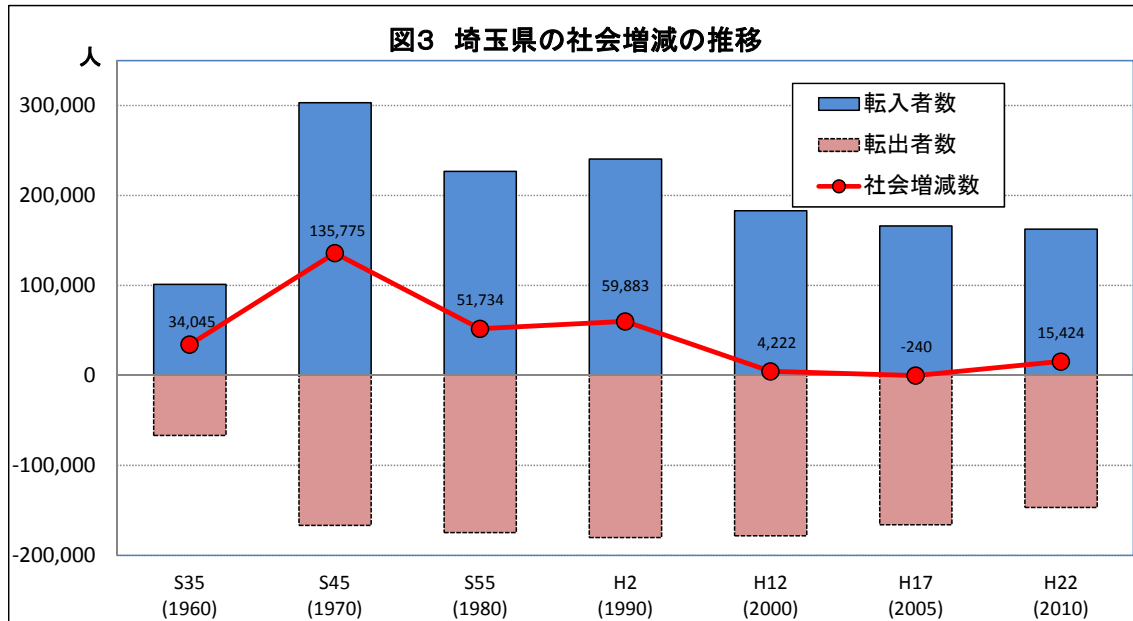
(単位：万人)

順位	都道府県	平成22年 (2010)	平成37年 (2025)	増加数 (2025-2010)	増加率
1	沖縄県	24.3	35.3	11.0	46%
2	埼玉県	147.0	198.2	51.2	35%
3	千葉県	133.9	179.8	45.9	34%
4	神奈川県	183.0	244.8	61.8	34%
5	滋賀県	29.2	38.5	9.3	32%

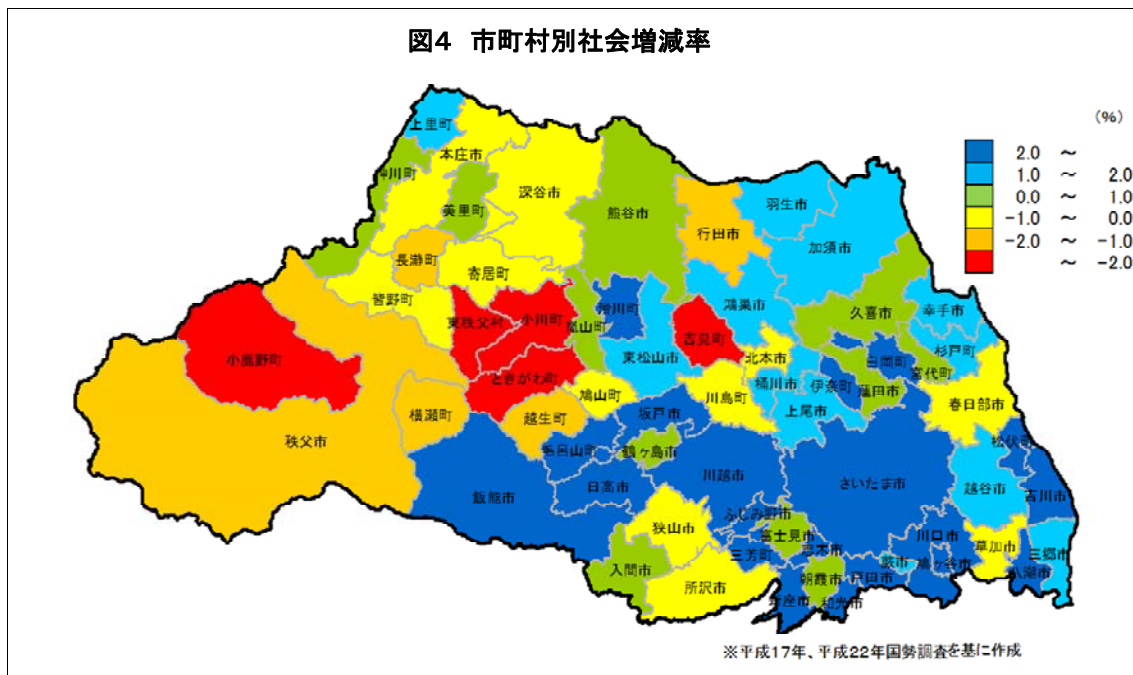
(出典：日本の地域別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所))

- ・全人口に占める年少人口(0~14歳)の割合は1990年に18.7%であったが、2030年には11.1%まで減少する見込み(7.6%減)。
- ・全人口に占める生産年齢人口(15~64歳)の割合は1990年に73.0%であったが、**2030年には59.1%まで減少する見込み**(13.9%減)。
- ・一方、全人口に占める高齢者人口(65歳以上)の割合は1990年の8.3%から、**2030年には29.8%まで増加する見込み**(21.5%増)。
- ・埼玉県では2010年から2025年にかけて高齢者が51万2千人増加する見込みである。高齢者人口の増加率は35%で、**全国で2番目のスピードで高齢化が進む見込み**。

2 社会増減の推移

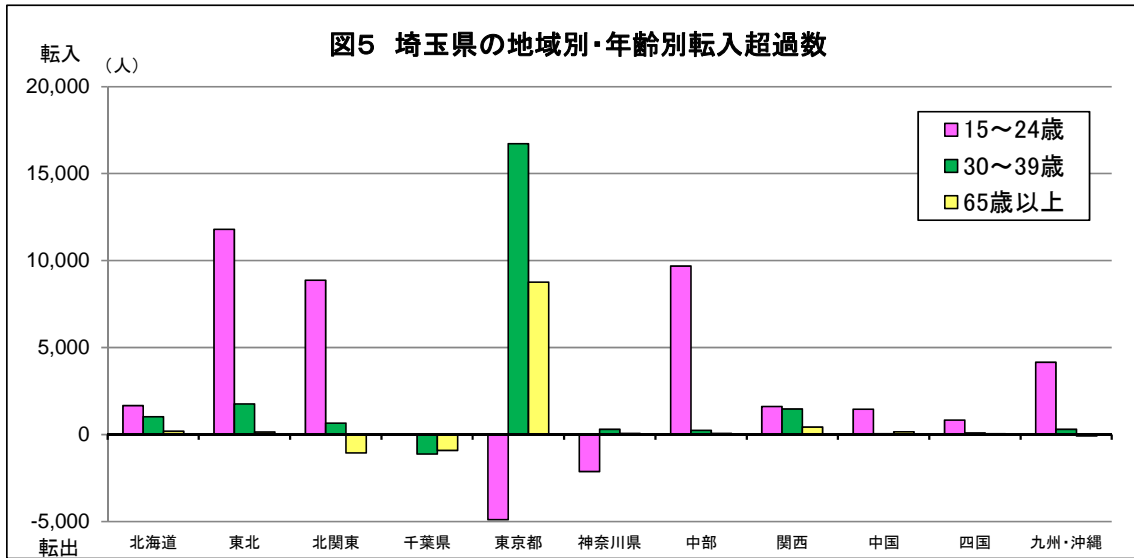


(出典：住民基本台帳人口移動報告 (総務省))

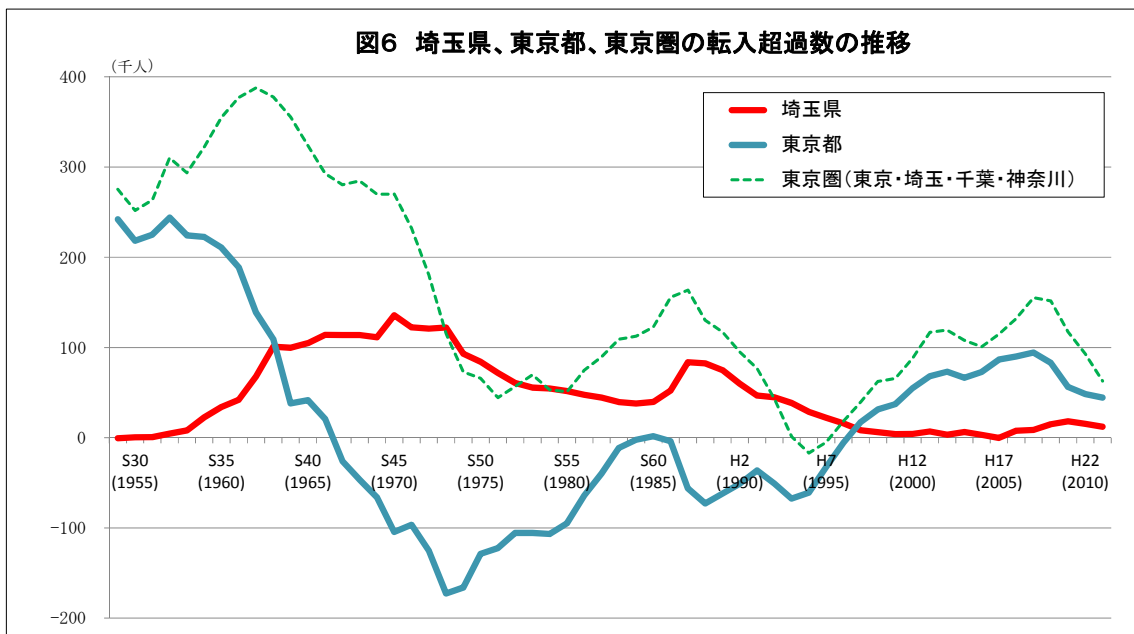


(出典：平成22年国勢調査結果 (総務省))

- ・1960年以降、埼玉県では概ね転入超過(社会増)が続いている。
- ・1970年の13万6千人をピークに転入超過人数は減少傾向となり、1997年に1万人を割り込んだ。2005年には一時的に転出超過となったが、その後は転入超過となっている。
- ・市町村別の社会増減率をみると、県東部～県西部では社会増となっている自治体が多いが、県北部地域、秩父地域などでは社会減となっている自治体が多い。



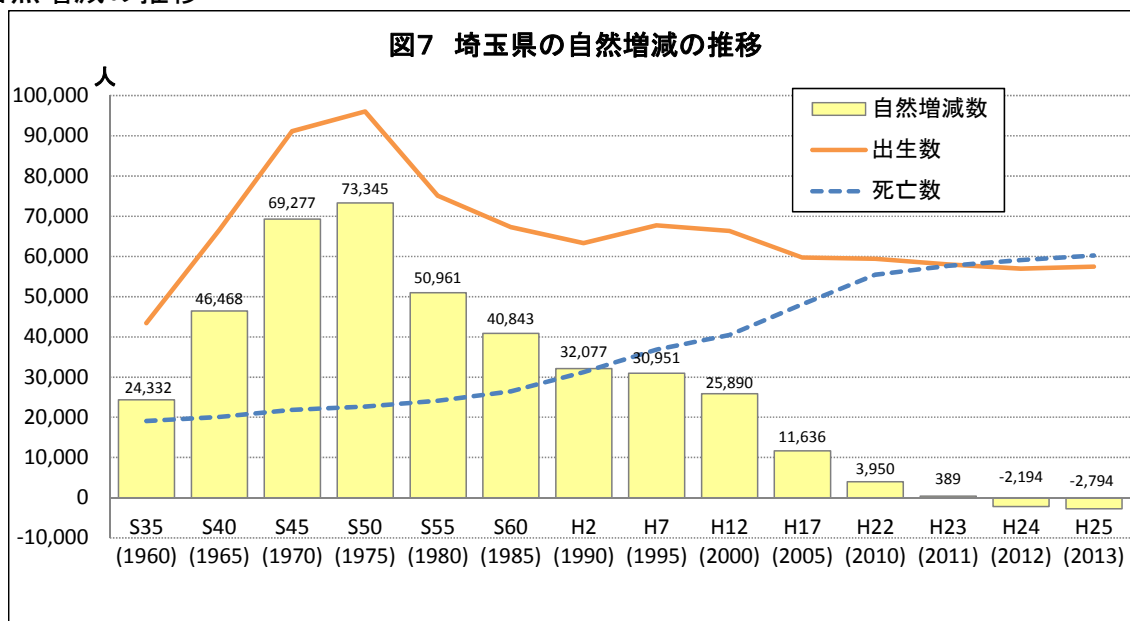
(出典：平成 22 年国勢調査結果 (総務省))



(出典：住民基本台帳人口移動報告 (総務省))

- ・年齢別、地域別の転入超過数をみると、15~24 歳では東北、北関東、中部から大幅な転入超過となっている一方、東京都及び神奈川県に対しては転出超過となっている。
- ・30~39 歳では千葉県が転出超過となるものの、東京都から大幅な転入超過となり、全体でも転入超過となる。
- ・65 歳以上では転出超過となる地域が増えるが(北関東、千葉県、九州・沖縄)、30 代と同様に東京都からの転入超過があるため、全体では転入超過となる。
- ・1955 年以降、東京圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)は概ね転入超過が続いている。近年では、東京都の転入超過数が増えると埼玉県の転入超過が減少する傾向がみられる。

3 自然増減の推移



(出典：埼玉県の人口動態概況（埼玉県保健医療部）)

- ・ 埼玉県の出生数は 1975 年に 9 万 6 千人であったが、その後は減少し、近年は 6 万人程度で横ばいになっている。
- ・ 死亡数は 2012 年に初めて出生数を上回り、自然減となった。今後も自然減が続く見込み。

